

四

漢史に載する九姓なる名が *Toquz Oyuz* の *Toquz* なる語に相當するものなりとすれば、*Oyuz* なる名は支那に傳へられざりしや、若し鐵勒なる名がその儘 *Oyuz* に相當し得べしとすれば、此の場合極めて適切なる解釋を得べけんも、此の如きは音聲の上よりいふも、また鐵勒なる種族に關する記載より考ふるも到底認め得べきに非ず、鐵勒は突厥碑文中の *Tölös* なるべしとは、*Thomsen* 氏によりて創稱せられ (*Inscription de l'Orkhon*, p. 61, n. 5)、其後多くの學者の賛同せる所なれども、鐵勒の如き大部族と、碑文に東突厥の東部に當りて住めるものと記さるゝ一小部族 *Tölös* との比定に就きては、音聲の類似の外全く之を信ずる能はず、余輩は寧ろ之を以て *Türk* の音を寫したるものなりと見^①、*Toquz Oyuz* は此の鐵勒即ち *Türk* 中の一部なる *Oyuz* の九姓より成れる團體にして、此の意味に於て漢史の鐵勒の九姓に相當するものなりと考ふるを以て、若し *Oyuz* なる名が支那に傳へられたりとすれば、必らず之を他に求めざる可らずと爲す。さて此の名につきては前に述べたるが如く、*Hirth* 氏は回鶻の古名なりとせらるゝ烏護・烏紇・袁紇・韋紇の中、烏紇を以て *Oyuz* の對音なりと主張せしが、然も、これより以前に於て *Thomsen* 氏は既に烏護も烏紇も共に *Oyuz* を寫したるものなるべきを論じたりしなり、余輩も此の點に於ては *Thomsen* 氏の説に賛し、*Uyur* の音を寫したるものは、隋書の韋紇にはじまれりと見んとす、韋紇 (*Wei-ho* 廣東音 *Wai-hät*) の韋が *Wei*, *Wai*, *Wui* 等の音を有するものにして、*Vêda*, *Vai dédi* 等の *Vê*, *Vai* を寫すに用ゐらるゝより考ふるも、之が *Oyuz* の頭音となる母音を寫せるものと見るよりも *ui* なる二重母音を寫